

第66回雲上大御神火祭 令和元年8月8日午前2時・午後8時

御嶽山雲上大御神火祭は、昭和29年1月28日午前2時、渡辺照吉第9代管長が覚明・普寛二霊神の御霊告を受けられ、世界平和、国運隆盛、攘禍招福、教内繁栄等を祈願するため、同年8月8日午前2時に御嶽山頂において第1回の御神火祭を挙行されたのが最初です。

令和元年には第66回を数え、8月8日午前2時に御嶽山王滝口7合目田の原において斎行し、御嶽教敬真大教会(教会長 赤堀真一郎：岐阜県教区)の奉仕団により実施されました。午前1時より祭典が執行され、午前2時を期して御神火祭が斎行されました。

■ 田の原祭場（8月8日午前1時祭典・午前2時点火）



祭員(敬真大教会 教会長他)



神楽奉舞(赤堀教会長息女)



御神火祭 斎木



御神火の採火



大松明へ



点火 神剣秘法



御神火 焚き上げ



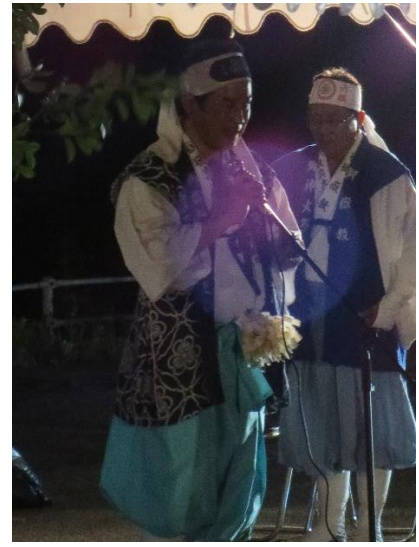
御神火 昇龍



井上管長 挨拶



岡本次年度奉仕団長 挨拶



赤堀奉仕団長 謝辞

8月8日午前2時に御嶽山王滝口7合目田の原において雲上御神火祭を斎行し、その浄火を麓の木曾本宮に奉遷し、全国信徒・崇敬者から寄せられた斎木30数万本を積み上げて、御嶽三神の三つの斎木壇を設営しました。

8月8日午後7時より、奉仕団・奉仕会による松明行列と共に御神火が本殿に入殿。本殿祭を斎行し、修祓、斎主祝詞奏上、神楽奉舞、玉串奉奠、挨拶と進み、御神火を本宮斎庭に遷し焚き上げ祭を執行。

午後8時御神火より浄火を採火し、大松明から三つの斎木壇に点火。管長による神剣秘法が奉修され、祭員・奉仕者により次々と斎木奉供が進められ、斎木壇の火焰は昇龍の姿となって天空を焦がさぬばかりに燃え盛った。奉仕者・参拝者の大祓の詞、祈りの詞が木曾の谷にこだまし、御神火祭は最高潮を迎えた。参拝者は祈りの詞を唱えながら御神火斎木壇を周回し、感謝と感動に満ちていった。

斎木壇の御神火より浄火を採火し、次期御神火奉仕団長（岡本康成滋賀県教区庁長）へ御神火の授受継承をした。来賓の後藤衆議院議員・正澤木曾町副町長・池田御嶽奉仕会会長等による鏡開きで、第66回雲上大御神火祭のすべてを終了した。

■木曾本宮祭場（8月8日午後7時祭典・8時点火）



御嶽山木曾本宮



木曾本宮齋庭



齋木壇設営



齋木積み上げ



齋木積み上げ作業



御神火祭齋木壇



月光の下 木曾本宮



午後7時 松明行列



奉仕団松明行列



行列先導 猿田彦



管長 昇殿



典儀 浅井宣幸



奉仕団を迎え入れる



法螺貝の音も高々と



全国からの奉仕団



全国からの奉仕団



管長 祝詞奏上



神楽奉舞



本殿外の特設参拝者席



本殿外の特設参拝者席



木曾本宮祭場



焚き上げ祭典



御神火を大松明へ



三つの斎木壇へ点火



御神火点火



神剣秘法奉修



斎木焚き上げ



斎木焚き上げ



斎木焚き上げ



斎木焚き上げ



斎木焚き上げ



斎木焚き上げ



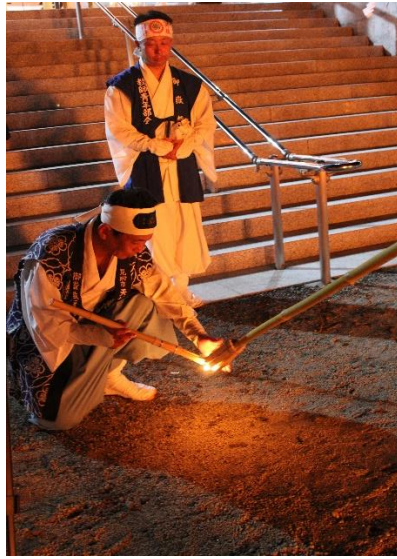
斎木焚き上げ



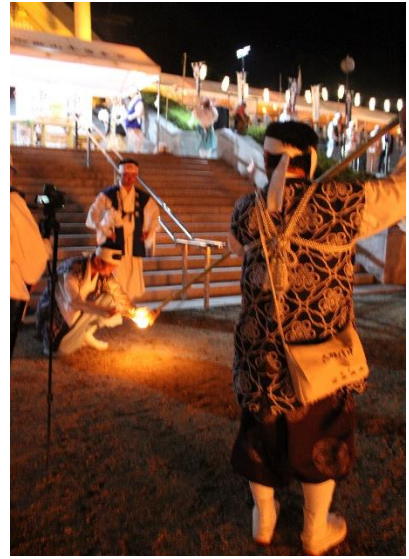
御神火 採火



管長による幣加持



御神火 採火



御神火 採火



御神火奉供



岡本 次年度奉仕団長へ御神火授受



岡本 次年度奉仕団(滋賀県)団長 挨拶



鏡 開 き (池田御嶽奉仕会会長・管長・
後藤衆院議員・正澤木曾町副町長)

次年度(令和2年)第67回御嶽山雲上大御神火祭 2020年8月8日(土)

【田の原祭場】：午前1時開祭2時点火 奉仕団：滋賀大教会(滋賀県教区)
【木曾本宮祭場】：午後7時開祭8時点火 奉仕団：滋賀県教区各教会・布教所

多数のご奉仕、ご参拝をお待ちしています。